

お母さん「ごめんね、ありがとう」

天水^{てんすい}

翔^{しょう}

ぼくのお母さんは外国人で、日本語があまりできません。お家

ではいつもかん国語と日本語をまぜて話します。外でもへいきで

かん国語で話すからはずかしく思います。

ある日、学校のじゅぎょうさんかん日でもかん国語で話して、
すくお母さんの事がはずかしくなりました。友だちにどこの

国か聞かれて、学校から帰ってお母さんをおこりました。でもお

母さんはかなしそうな声で「お母さんのことはずかしいの？」

ときかれました。そうしながらお母さんはこう言いました。

「お母さんはしょうくんたちにはじをかかせないために日本語
のべん強も和食の作り方もがんばってるよ。はずかしいより外

国語が話せるからほこりに思えばいいんじゃない。」

それから夕食後のしゆくたいをする時、お母さんも本をだして
いっしょにべん強を始めました。字を書くお母さんを見ながら

わるかったとはんせいしました。

お母さんはいつもぼくたちにはじをかかせないため日本の小
学校にとうやくボランティアに行ったり、学校のシステムややく

いん活動を先にチェックしながらがんばっている事を思いだし
ました。学校の事で分からない時はけいいたいで調べたり、友だち

のお母さんにでんわして、へたな言葉できいてくれました。

ぼくは、言葉もつうじない国で、一人ではぼくたちのめんどうを
見ながら家族をささえるお母さんのねているすがたを見てなみ

だが出てきました。こんなががんばってるお母さんのことをは
ずかしく思っ、わるかったです。

それでいつもぼくたちのためにがんばってくれるお母さんに
「ごめんなさいそれありがとうございます。」と言いたいです。